

三京えのき ことと園

山脇 希望 様

明け事に おめいごの ごあいさつ。何となく旧正月ですね、遅くおりましたか。昨年12月29日、貴三京えのきことと園の可愛、可愛、皆様方から、16の温かい優しいお手紙をいただきました。ありがとうございました。

思い出は あれは 79年前の真夏の事。

昭和20年8月6日、月曜日。朝8時15分。

在米最初の原子爆弾を アメリカ軍が広島に投下しました。中学1年生だった滋兄さんは、同級生32名、先生4名とともに、全員無念の死を遂げました。

母と母を助けた母滋子が、お骨とめいりおたのは3日後の8月11日 木曜日の朝でした。前期の方、生徒の死体を山の上に積り上げて火葬にこころの報せもあり、急いでかけつけました。

借に お墓にたいたお骨や、水筒があとに残りました。

10Lの樽が在米2発目の原子爆弾が、広島市に投下されたのですね。

父正雄は歯科の軍医で台湾に出征中、長兄正昭は海軍兵学校生徒で長崎県針尾分校にいました。

針尾分校は後に「ハウステンボス」に変わったので。

叔、昭雄は 〇〇小学校四年生で9歳でした。

お骨の入った木箱の前で、「アメリカはおこい池を打つ——」「おこいの——」と

肩を震わせ泣く母の顔。私も一緒に泣き出した。

その後、私は石井信彦先生と木野^直に書生に上り頂き、一生懸命勉強し医師になりました。先生の師尊又か夏山寺のシホウトのお弟子であったことも教わりました。

広島市^市議会議員として昭和27年4月 卒後3年ほど 厚樾被爆者、医療の関係で 広島と夏山の市医師会は交流があり、故郷の厚樾資料館も見学しました。

滋兄さんとは一巻の思ひ出は、母が友人から山の一部を借り、母と滋兄さんと昭雄の三人で山の麓や石を動かして竹藪の根を除去し段々畑を作ったことです。

行水 2年組の小菘や大豆、ジャガイロを植えて、山の上で水不足のため、麓の小川から水桶や肥桶を二人で担いで山の上まで運んで上げました。

昭雄、昭雄の前と、背の高い滋兄さんから後で担いでいって、山の上まで運んで上げました。

その甲斐も2 年組の7月に初めて収穫した小菘と大豆は8月6日に竹藪で作り出した。お米は刈り取って、ジャガイロは芋畑に油炒めにして漬けた。母と三人で作業の甲斐走です。

滋兄さんはお盆の倉かまを縁しに2年産箱に入りました。朝6月朝、「行くぞ来一す」、「行くぞ来一す」と言って自転車で東の川の手前の道を走り行くのが最後の別れでした。縁しに2年産のお米は倉かまには行きませんでした。

8月11日に母が持ち帰った食器箱は 軽くて蓋を開けると
底の方に「お黒」に書いてあった。

子供たちが昇った「年相宣言」もすばらしいですね。
「おやかえり」、「ごめんね」、も一つ追加ですね。「はい」ですね。

「はい」と「おやかえり」と「ごめんね」。誰かと言っても、いつ言われても、
どこの言われても 息子にはありません。

にっこりとお腹笑って返して下さい。

お孫の書の中か。いつかでも、いつかでもお孫の心を願っています。

敬具

令和6年1月21日 八十八歳 誕生日

折免昭雄様